

教育長定例記者会見 会見録

日時：平成29年12月13日 11時30分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・プログラミングフェスティバル
- ・小・中学生英語キャンプ

質疑事項

- ・発表項目について
- ・定例会について
- ・1年を振り返って

発表項目

(教育長) 2つ発表させていただきます。まず1つ目はプログラミングフェスティバルの開催です。12月26日(火)に、三重県総合教育センター多目的ホールにおいて、プログラミングフェスティバルを開催します。新学習指導要領では、2020年度から、小学校においてもプログラミング教育を実施していくことが示されています。このフェスティバルは、総務省の事業を受託し、プログラミング教育を今後推進していく指導者(メンター)育成の一環として開催するものです。県内27の小学校の4年生から6年生の約50人が参加し、様々なプログラミングを体験します。今回のプログラミングフェスティバルは、2部構成で実施します。

第1部では、南伊勢町立南勢小学校の中村武弘校長先生に講師をお願いし、プログラミング講座を開催します。中村校長先生は、県教育委員会が実施しましたプログラミング指導者(メンター)育成研修受講者でもあります。具体的には、4人から5人1組の子どもたちが、イモムシ型ロボット、このロボットの胴体を組み立てて課題に挑戦します。胴体にはそれぞれ、矢印があるんですけど「まっすぐ進む」「右に曲がる」「左に曲がる」といった命令が組み込まれているため、与えられた課題をクリアするためのプログラミングを体験します。

第2部では、7つの体験ブースに分かれ、コンピュータ上で動く「スクラッチ」などのソフトを使ったプログラミングや、レゴのロボット「マインドストームEV3」を用いて、決められたコースを走らせるといったプログラミングを体験します。

なお、今回のフェスティバルの参加については、市町教育委員会を通じて県内全ての小学校に案内しました。12月4日(月)から先着順で受付を開始しましたが、希望者多数のため1時間程度で定員に達しました。参加児童の写真など、募集時に撮影・報道使用の許可を取っておりますので、当日の取材につきましてよろしく申し上げます。

2つ目、小中学校の英語キャンプの件です。12月25日(月)から26日(火)に、三重県立鈴鹿青少年センターにおいて、「三重県小・中学生英語キャンプ」を開催します。

平成26年度から行っており、今年度で4回目となります。対象学年は、小学校5、6年生と中学校1年生から3年生です。県内全ての小中学校に案内し、募集を行ったところ、定員小学生40名、中学生30名に対し、18市町50校から、小学生86名、中学生39名の応募があり、抽選により参加者を決定しました。

キャンプでは、英語を使用し、外国語指導助手とともに、インタビュー活動や「三重のふるさと自慢」についてプレゼンテーションを行うほか、空港でパスポートを見せて入国審査を受ける場面や、ホテルにチェックインする場面のロールプレイ、また、外国語指導助手から出身国についての紹介を聞き、その内容についてやりとりをするなど、異文化理解を深める活動を行います。また、「コミュニケーションタイム」として、大学生から会話の支援を得ながら、小学生と中学生が異年齢交流を図る場を持ちます。

これまで実施したキャンプでは、当初は不安を感じていた子どもたちも、「たくさん英語が話せた」「理解できた」と喜びを感じ、さらなる英語教育へのやる気を見せていました。この英語キャンプが、子どもたちが海外の文化や英語についてさらに興味関心を深めるきっかけになればと考えています。

発表項目に関する質疑

(質) このプログラミングのなんですけど、実証事業の受託って、三重県以外にもたくさん？

(答) 全国で19の学校が実証校として受託しております。

(質) 19校？

(答 研修推進課) 学研エデュケーションとかZ会、日本マイクロソフトとかそういった企業が受託してやっております。全部で19の団体が受託しており、そういうところが地元の小学校等と実証校としてやっております。直接的に教育委員会が受託しているのは、実は三重県教育委員会のみになります。あと自治体としては松江市が受託しておりますが、それだけでございまして、ほぼ企業が受託しており、その企業が小学校と連携して実証校としてやっています。三重県教育委員会の場合は、教育委員会と市町教育委員会、小学校という形の連携で進めているところでございます。

(質) 三重県教育委員会や松江市というのはこの19団体の中に入っている？

(答 研修推進課) 入っています。

(質) これ、どっちも早々と定員オーバーやと偉そうに言いますが、そもそも、ちまちまやっていることがおかしいんじゃないですか。もっと全県に幅広くいくようなイベントにしないと、こういうちまちましたイベントだけだったら、公務員のアライバイでやっているだけの事業に終わりませんか。

(答) このプログラミングフェスティバルは、総務省からの受託事業ということもありまして、モデル的にやっているという意味合いもございまして。それで市町の教育委員会へ趣旨をきちっと説明して募集をしておりますので、もっと広がるということになってくれば、全県的に募集をして、財政的な面も必要かとは思いますが、大々的にしていきたいと思っています。英語キャンプも4回目ではあるんですけど、本当はもっと大きく広げてというのはあるんですけど、なかなか趣旨とかが伝わりにくいというところ

ろもございますので、学校を通じて、市町教育委員会を通じて今発表しているところ
です。もっと広がればと思っておりますので、今後もっとPRに努めたいと思ってお
ります。

(質) メンター養成の人数的な目標はあるんですか。

(答 研修推進課) 現在35人の小学校、中学校の教員がメンター育成研修に参加してお
ります。

(質) いや、目標なんですけど。それは研修に参加している人ですよ。

(答 研修推進課) ほぼそれぞれの市町に1人以上は、ということで考えております。ま
だ実は空白区もあるんですが、来年もまた続けてやっていきたいというふうに考えて
います。

(質) 英語キャンプは個人費用の負担とかないのか。

(答) 個人の費用の負担もございます。宿泊料は県の負担なんですけど、ごはん代、リネ
ン代は個人に負担いただいております。小学校で720円、中学校で3,155円
ということでそれを支払ってもらっています。

(質) 2日間で小学生なら720円?

(答) 小学生なら720円、中学生なら3,155円。あと白子駅からは青少年センター
までバスで送迎とかするんですが、白子までの旅費というのは必要になります。桑名
の子なら白子駅までの値段とか、それは個人で負担してもらっています。

(質) これは県費でやるのか。それともなんかの補助があるのか。

(答) この事業は県単の事業です。

(答 教育総務課) 小学生は日帰り、中学生は1泊2日ということになっております。

(質) プログラミングのほうなんですけど、他の自治体があんまりない中で、あえて教育委
員会が受託した狙いとか理由があれば教えてください。

(答) この報道提供資料にも書いてあるんですが、2020年から小学校でプログラミン
グ教育を実施していくということになります。プログラミングは論理的に思考しないと、
指示したものが動かない、目的まで届かないということがあります。財政的に非
常に厳しい三重県ですので、国からモデル的な事業をやらないかという声かけがあっ
たときは、必ずというか、応募させていただくという方針でおります。

(質) 逆にこういう専門的なものって、そういう企業とかに任せたいというパター
ンもありえるのかなとも思うんですけど。その辺うまく教育委員会の中でプログラミ
ング教育とかをしっかりとやっていくための、受託したからにはやるような独自の取組
はどんなことをしていくのか。

(答) 企業に委託して、お願いしたらもっと高いレベルのものができるかもしれないです
が、国の事業を活用して、先ほど研修推進課長も言いましたが、メンター、指導者を
育成するということですので、直営というか、国の事業を活用させてもらって、子ど
もと一緒に学びながら、指導者も養成するという意味合いがありますので、ぜひ県教
育委員会ダイレクトでやっていきたいというふうに思っています。

(質) 技術的な部分って、どこから助言とか受けたりしてるんですか。

(答) メンター、指導者になるために?

(質) はい。

(答 研修推進課) 育成研修は全部で6回開催しますけれども、最初はプログラミングっていったい何だろうかというところから、第一人者の方等をお呼びして、まずは講義をさせてもらいました。お呼びしたのは奈良女子大学の駒谷先生という、もともと企業にお勤めだった方で、この方に来ていただいて、いわゆる基礎的な講義をしていただいた後、教育長からも申し上げましたけど、スクラッチというコンピュータソフトウェア、これについては三重大の下村先生、名誉教授でいらっしゃるんですけど、下村先生に来ていただいてご指導をお願いしました。さらに、マインドストームに関しては、レゴスクールを運営しているラーニングシステムというところがあるんですが、そのラーニングシステムのインストラクターに来てもらって、実地的に研修してもらったということがあります。それだけでなく、それをどう学校の中の授業に生かしていくかということが大事ですので、再び駒谷先生にご登場いただいて、指導案作りということもやらせていただいて、学校の中にうまく位置づけていくようプログラムを組んでいるところです。

その他の項目に関する質疑

○定例会について

(教育長) 定例会については、請願が、30人学級とゆきとどいた教育を求める請願についてということで、1件ございまして、審議の結果、不採択ということになりました。議案については1つで、公立学校職員の退職手当に関する条例施行規則の一部を改正する規則案、規則を改正するというので、これについても原案どおりということになりました。それから、報告ということで、現時点の三重県いじめ防止条例についてということで、パブリックコメントを取った後、こういうような、今のところの案ですということをお示しさせていただきました。それから、2つ目は、三重県の優秀選手・指導者表彰ということで、今回、29年度はこういう方を表彰するというので、お示しをさせていただきました。

(質) これ、不採択という、報告をしたということですか。

(答) いや、教育委員会として、不採択という結果になったということです。

○1年を振り返って

(質) 1年を振り返ってどうか。

(答) 雑感みたいな形になると思いますが、4月1日に新しく教育長として着任をさせていただいて、一番最初、日にちまで覚えているんですけど、4月6日に臨時の校長会議をやりました。それは、前年度の段階で、子どもたちが加害側に回るという痛ましい事件がありましたので、命を大切に教育するというのを全校挙げて、まず県立でということが集まった時に、本当にみんなと子どもたちのためにやらないかなという意思が一番強くした、それが最も印象的なことでした。それを踏まえて、小中学校にも市町の教育委員会を通じてということで通知もさせていただきましたが、そういうことから始まって、いじめに関する条例を本当に頭を突き合わせて、高校生たちの思いも聞きながら作り始めたところが最も印象に残る、今もいじめの条例もずっと一生懸命考えているところですけども、いじめをなくすということのために、子

もたちのためにというのを一生懸命やりたいなというのを今、意を新たにしている、雑感ですけど、一番印象に残っているのはそのことです。その他、夏に一生懸命練習して始球式をしたんですけど、ツーバウンドになってしまったということもありました。4月着任以降ですけど、そういうことを感じているところです。

(質) 越境入学のことであつたりとか、部活動ガイドラインの話であつたりとか、現場と事務局であつたり保護者という間で、様々な意見・議論を交わさなければならない場面がたくさんあつたと思うんですけど、それぞれについて振り返ってもらってよろしいですか。

(答) 保護者が転住していないというのが4月26日かなんかに報道されたということで、それから調査をして、子どもたちがどんなふうに思っているかを聞いたり、学校としてどのように考えているのかという現場の声を聞きながら、どういう方法がいいのかということを経験なりにも考え、そして皆さんに集まっていただいて方策を練っていったということは丁寧にしてきたかなという思いはあります。それから部活動ガイドラインについても、種目によって個人競技、団体競技、そして子どもたちがどこまでその技術を持っているかも一人ひとり違うことですし、それに伴って保護者も職員も考え方がいろいろございますので、一義的に県で作ったからやりなさいということではないし、子どもたちも本当に強くなりたい、うまくなりたいという気持ちもあるので、それこそ現場の声を一つひとつ丁寧に聞きながら、ガイドラインをどういう位置づけで作っていかなければならないかなというのも考えつつ、今も丁寧に進めているし、最終的にもそうやって持っていきたいなと考えているところです。

(質) 就任されてからまだ1年経っていないんですけど、この1年間を簡単に振り返って、感想というか、お仕事を進められていく上で、どういう印象を持たれたか、どういう実感をされたかという1年を通じた感想を。

(答) 雇用経済部に居たということもあるので、雇用経済部であれば中小企業の発展とか、そういう1つの目標に向かってみんながベクトルが合っていくというのがありますが、教育委員会に来て、子どもたちのためにと思いながらも、その子どもたち自身にもそれぞれみんな個人個人の考え方があってんだなというような、一人ひとりに丁寧に寄り添うことも必要だけれども、大きな方向は決めていかなければいけないなというところに、非常に丁寧さ、それから難しさを感じているというのも、着任してから日々感じて仕事を進めているというのが、本当に何の飾り気もない実感です。

(質) 来年はどんな年にしたいでしょうか。

(答) 来年はインターハイもございますので、すべての子どもたちが、もちろん命を大切にする教育というか、いじめもなく、もちろんのことながら根絶を目指しているところですけど、そういうこともなくって、子どもたち自身が輝いていけるような一年になったら、それは学力であり、道徳であり、英語であり、本当に三重県で勉強していてよかったな、部活動もしていてよかったなと、理想論であるんですけど、そんなふうに大人になって振り返ってくれるようなことにしていきたいなというふうには思っています。その気持ちは変わりません。

(以上) 11時54分 終了